

・会員名簿作成（現在作成中、12月までに完成の予定）

2. 会報の発行回数の変更

来年より、会報を年3回の発行とし、各号を増ページする。

3. 新役員（1991年1月より2年間）

会 長 加崎英男（新任）
副会長 桜井善雄・浜島繁隆（再任）
幹 事 沖 陽子、角野康郎、国井秀伸、下田路子、田中 修、納田美也、林浩二、別府敏夫、星 一彰（再任、アイウ順）
名誉会長 原田市太郎
名誉顧問 大滝末男

今回の役員改選にともない、会則を変更してあらたに名誉顧問を設置することが承認された。

4. 学生会員制度の新設

来年度より学生（高校生、大学生、大学院生）は学生会員として、会費は一般会員の半額とする。

5. 来年度全国集会開催地

関西地区で行なう方向で協議する。

御 礼 の ご 挨拶

大 滝 末 男

1980（昭和55）年8月9日、大阪市立自然史博物館での第2回水草研究会で、原田市太郎初代会長の後任に、私が推挙されて以来、1990（平成2）年8月4～5日、新潟で第12回全国集会在今回も盛大に開催され、無事終了しましたことは、まことに慶賀に絶えません。

水草研究会は、当初約100名の会員でスタートしたのですが、こんにちでは約270名もの会員を擁する全国組織に発展しましたことは、偏に会員各位の絶大なご理解とご支援ご協力の賜ものであると、ここに厚く御礼申し上げます。

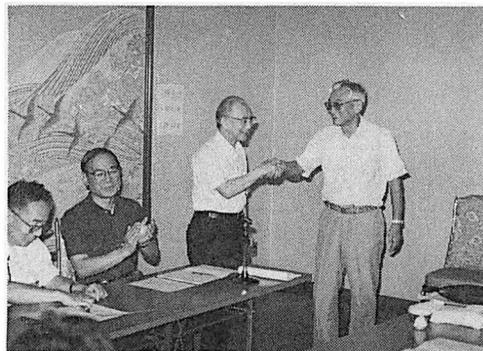
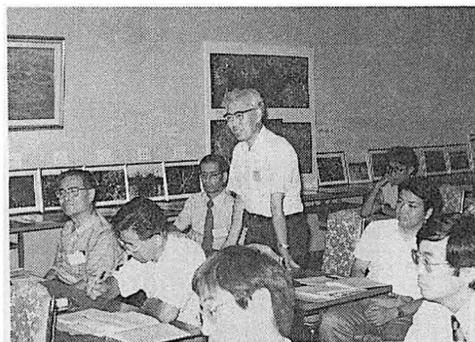
私は若いときから、水辺に近づいたり、水辺に佇むとたまらなく心が和むことから、いつしか水草に関心を持つようになって、こんにちに至り、会員の皆様と接するようになったわけで、なんとも不可思議な奇縁であります。いまや、湖沼や河川および湿原などの正常な存在は、日本の内外を問わず、水環境における水草の有無は、い

やがうえにも重要視され、あらゆる方面から、その研究の必要性が迫られています。このような情勢下において、本研究会の存在価値はいよいよ高く評価されつつあり、会長の任務も増大しています。

いままでは、私は会長という柄でもないのに、どうか皆様のご協力で、満10年余も大過なく過ごさせてまいりましたことは、なんとも面映ゆい限りです。

ところで、私は去る五月で満70歳になり、そろそろ気力、体力共に限界を痛感するようになり、かねてより会長を辞任したいものと決意していました。幸いにも、このたびの総会で次期会長に加崎英男先生（元都立大学教授）が推挙されましたので、この機会にマンネリ化を防ぎ、新風を吹き込むことを期待いたします。私にとって、加崎先生は30余年前からいろいろご指導頂いている間柄でありますので、快くバトンタッチをさせていただきました。

会員の皆様方には、どうぞ私同様にご支援ご協力下さいますことを、ここに祈願すると共に、謹んで一筆御礼の謝辞を申しあげる次第であります。ほんとうに長い間有り難うございました。



(上)研究発表会 (下)大滝現会長 (右)から加崎新会長 (左)へバトンタッチ